

# 進展するIT化社会における出版 の将来

土屋俊  
(千葉大学)

# 申し上げたいこと

- 日本の出版の「情報化」はもうすこしなんとかならないか
- それを考えるにあたって、大学図書館がこの5年でどう変わったかについての情報提供
  - 学生がどう変わったから
  - 研究資料がどう変わったか
- そこから得られるささやかな、しかし無謀な妄想
  - これまでの日本の出版の電子化は不毛
  - インターネット頒布・使い放題の実現

# 「電子化」「情報化」のイメージギャップ

- 「電子ブック」とは何？
  - 大学図書館ではeBookのこと。つまり、「電子ジャーナル」と同じように利用可能な「本」コンテンツ
  - 日本の出版業のかたがた：Σブック？リブリエ？
- インターネットによるデータベース利用？
  - 大学図書館では（外国のほとんどのベンダーについては）使い放題、プリントアウトし放題
  - 日本のベンダー：同時アクセス数制限によるturn awayが頻出（一冊の本は同時に一人しか読まないといういわれなき妄執？）

# 大学図書館の相対的位置

- 公共図書館の総資料費: 354億円

内図書: 277億円

(日本図書館協会(JLA), 2003)

- 大学図書館の総資料費: 771億円

図書: 324億円

(内国内刊行: 197億円)

雑誌: 357億円

(内外国雑誌: 296億円)

(文部科学省「大学図書館実態調査」, 2003)

# 大学図書館で過去5年におきたこと

- 学生像の変化

- 授業によく出る
- 図書館に来ない、本は読まない(昔から?)
- メールは携帯

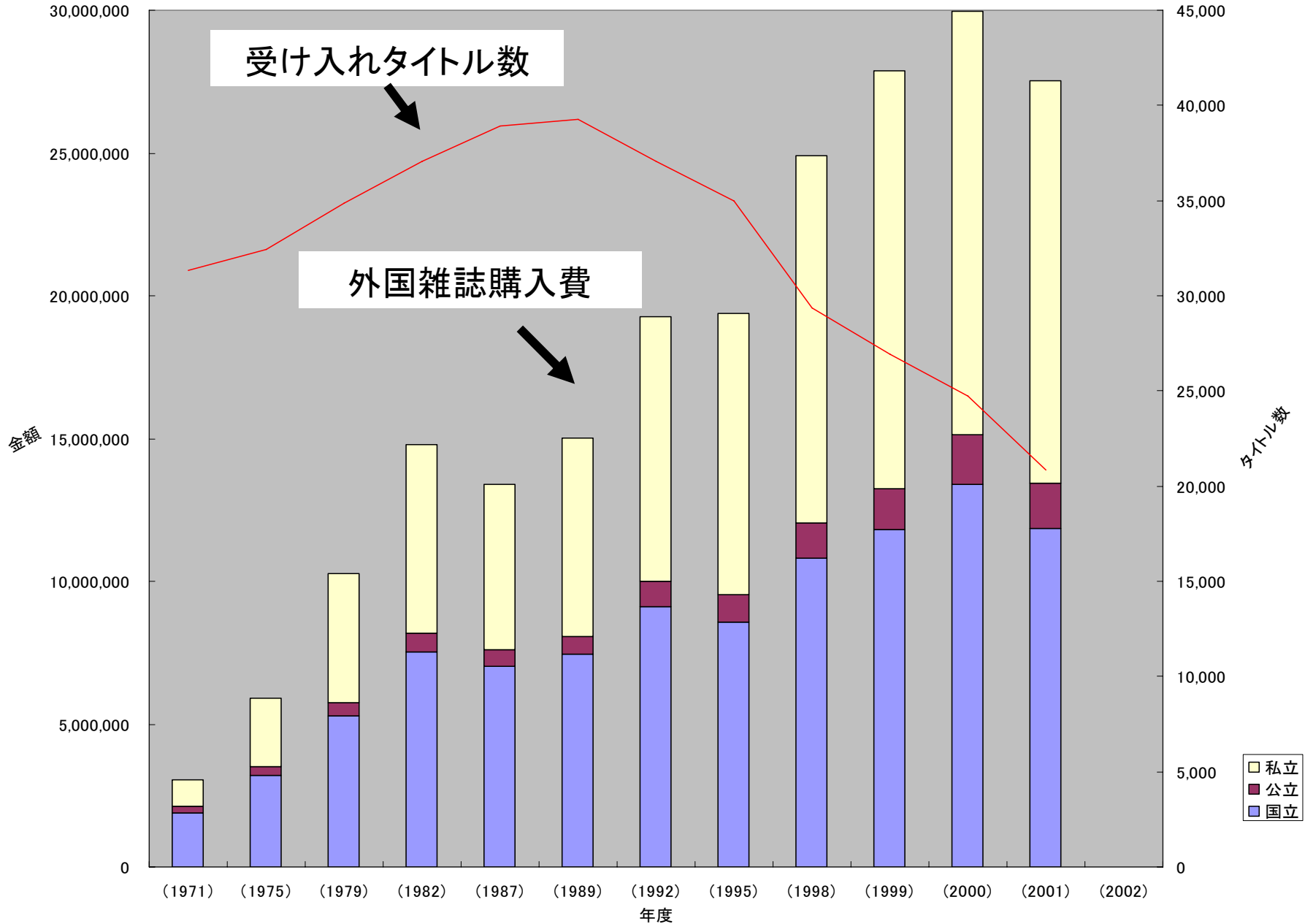
- 「電子ジャーナル」の出現

- ものを置いておく必要がなくなった(したがって、図書館にもっと来ない)
- 「もの」でないので、権利処理(ライセンス)のみ
  - ものの管理ではなく、契約と利用の管理
- 「冊子」より細かいサービスの単位

単位:千円

# 日本国内図書館の外国雑誌購入費および受入れタイトル数

但し1982年度までは和雑誌も含む

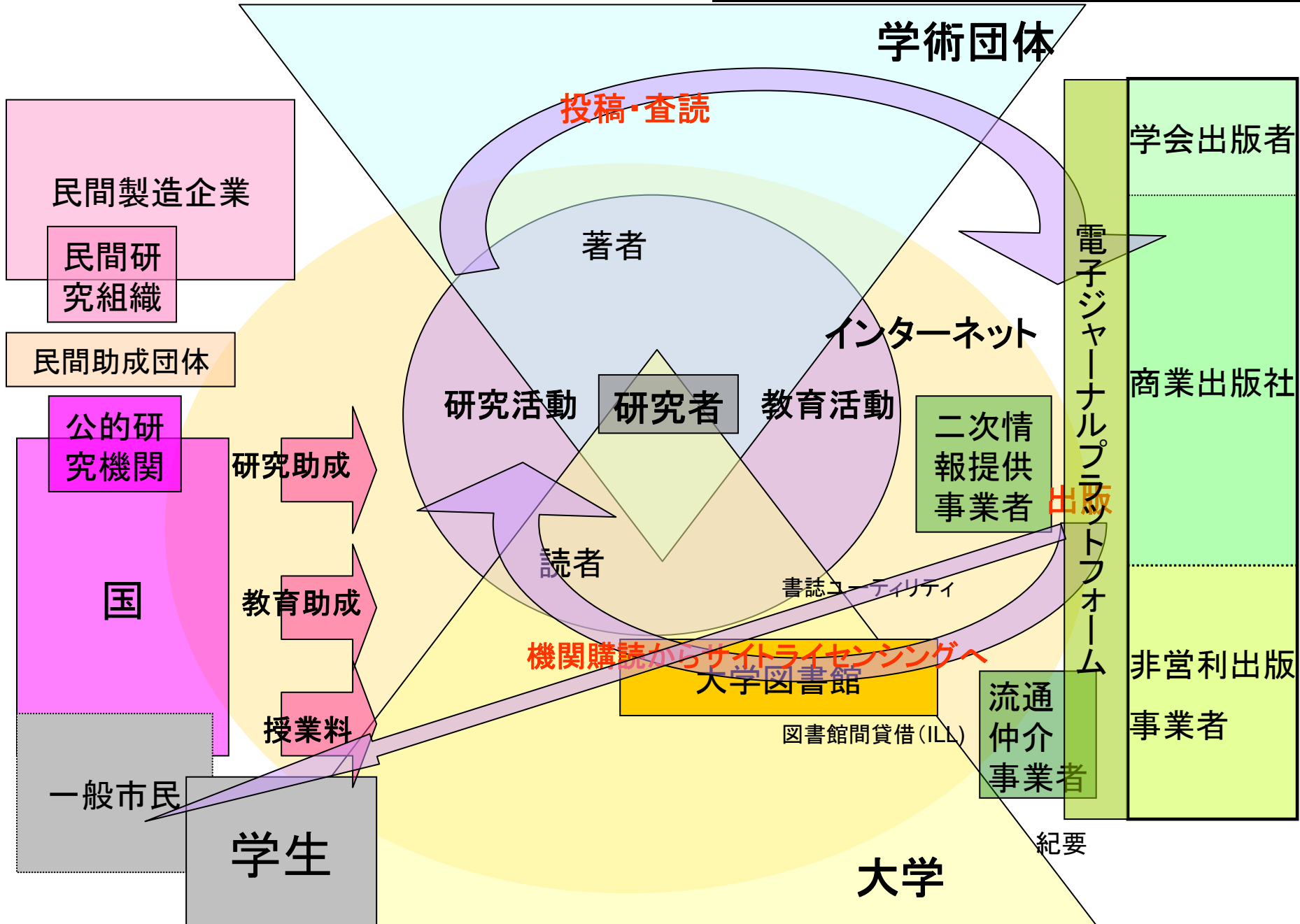


# 複写依頼されたタイトルの推移: 外国雑誌 ⇒ 国内雑誌

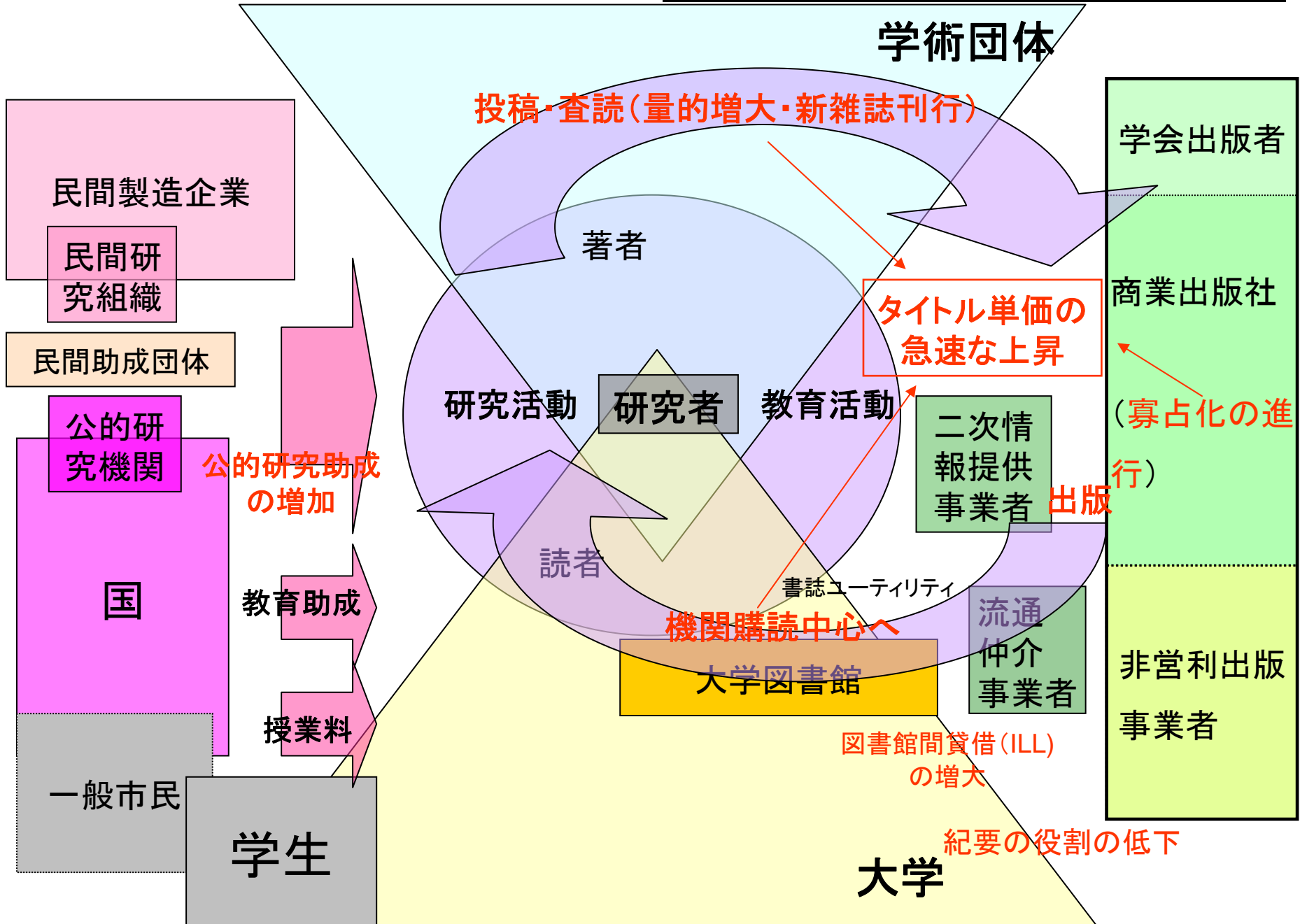
その変化は2002年(電子ジャーナル導入経費実施の年)から顕著

1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
Nucleic ac Oncogene. Nucleic ac Nucleic ac Biochimica Biochimica Biochimica Anticancer Anticancer	Oncogene. Nucleic ac Gene : an iGene : an iGene : an iAnticancer Anticancer Biochimica Annals of tAnnals of tAnn N Y A	Nucleic ac Oncogene. Anticancer Annals of tAnnals of tAnnals of tBiochimica Anticancer	Gene : an iOncogene. Biochimica Nucleic ac Oncogene. Advances iNeurorepor	Oncogene. Advances iGene : an iGene : an iLangmuir : NeuroreporBiochimica	Gene : an iGenomics. FEBS lette NeuroreporOncogene. Advances iAmerican jJournal of	FEBS lette Tetrahedro Human mo Genomics. NeuroreporElectropho Electropho Proceeding	Brain rese:FEBS lette Tetrahedro Human mo Genomics. NeuroreporElectropho Electropho Proceeding	Biochimica Human mo NeuroreporFEBS lette FEBS lette Current bicNeuroreporGene : an iAnalytical k	日本精神科 日本精神科 日本精神科	日本看護研	日本看護研
Annals of tThe EMBO Journal of American jThe Journ:Annals of tFEBS lette Journal of ProceedingThe journa	Annals of tThe Journ:The Journ:Anticancer FEMS micnJournal of FEBS lette American jLangmuir :	Chemical pBrain rese:Human mo Tetrahedro Current bicGenomics. Journal of Journal of Journal of The journa	The Journ:American jProceedingAnnals of tChemical pAmerican jBiochemic:Analytical k	The Journ:Analytical kEuropean jBrain rese:ProceedingBrain rese:Analytical kAdvances iTetrahedro Advances i	Biochemic:Tetrahedro Tetrahedro American jSomething Electropho Langmuir : Journal of The Journ:	Thin solid fMolecular :Annals of tThin solid fBrain rese:The Journ:Nucleic ac Molecular iBiochemic:Langmuir : Chemical pJournal of	Human mo Annals of tChemical pEuropean jThe Journ:ProceedingMolecular iFEBS lette	Molecular :Journal of Thin solid fAdvances iTetrahedro Molecular iThe journa	母性衛生 / 母性衛生 / 母性衛生 /	日本看護研	小児保健研
Journal of European jThe EMBOThe Journ:Human mo Human mo Journal of The journaJournal of Current bicThe Journ:	American jChemical pNeuron. Chemical pAmerican jJournal of Genomics. Biochemic:Current bicNeuroreporJournal of	European jBiochemic:FerroelectrMolecular :Thin solid fJournal of Proceeding	Surface scAdvances iJournal of Journal of European jGenes & d:Chemical pJournal of Tetrahedro Synthetic (Advances iBiochimica	Journal of The EMBOSynthetic iTetrahedro Journal of CarcinogerThe Journ:Journal of	Neuron. Neuron. Molecular :Current bicJournal of Analytical kCarcinogerThe Europ	Tetrahedro NeuroreporAdvances iGenes & d:Analytical kThe journaCurrent bicInternation	大阪毎日新	日本看護研	カウンセリ	カウンセリ	小児科臨床
Journal of European jThe EMBOThe Journ:Human mo Human mo Journal of The journaJournal of Current bicThe Journ:	American jChemical pNeuron. Chemical pAmerican jJournal of Genomics. Biochemic:Current bicNeuroreporJournal of	European jBiochemic:FerroelectrMolecular :Thin solid fJournal of Proceeding	Surface scAdvances iJournal of Journal of European jGenes & d:Chemical pJournal of Tetrahedro Synthetic (Advances iBiochimica	Journal of The EMBOSynthetic iTetrahedro Journal of CarcinogerThe Journ:Journal of	Neuron. Neuron. Molecular :Current bicJournal of Analytical kCarcinogerThe Europ	Tetrahedro NeuroreporAdvances iGenes & d:Analytical kThe journaCurrent bicInternation	大阪毎日新	日本看護研	カウンセリ	カウンセリ	小児科臨床
Journal of European jThe EMBOThe Journ:Human mo Human mo Journal of The journaJournal of Current bicThe Journ:	American jChemical pNeuron. Chemical pAmerican jJournal of Genomics. Biochemic:Current bicNeuroreporJournal of	European jBiochemic:FerroelectrMolecular :Thin solid fJournal of Proceeding	Surface scAdvances iJournal of Journal of European jGenes & d:Chemical pJournal of Tetrahedro Synthetic (Advances iBiochimica	Journal of The EMBOSynthetic iTetrahedro Journal of CarcinogerThe Journ:Journal of	Neuron. Neuron. Molecular :Current bicJournal of Analytical kCarcinogerThe Europ	Tetrahedro NeuroreporAdvances iGenes & d:Analytical kThe journaCurrent bicInternation	大阪毎日新	日本看護研	カウンセリ	カウンセリ	小児科臨床

# 21世紀初頭における電子的流通のモデル



# 商業化の進行と価格の上昇による機能不全



# シリアルズ・クライシスは紙文化の産物？

- タイトル単価の急上昇メカニズムは明解
  - 総論文量の増加 ⇒ 製作・頒布費用の増大
  - ⇒ タイトル単価・タイトル数の増大
  - ⇒ 購読機関の減少（費用分担の分母の減少）
  - ⇒ 単価の増大 ⇒ **悪循環**
  - ようするに、「物」を売っているのに、販売の促進をするのではなく、たんに資金回収していただだけ（最近では違うようだが、、、）だけど、情報の性格から当然
- しかし、このようになるための暗黙の前提もある
  - タイトルの単価は、総費用を部数で割ったもの？
    - たしかに雑誌には再版はない。
    - 結局、「紙」だから「物」産業と同じ発想で考えていた

# 電子ジャーナルは新しい世界をもたらしつつある

- 学術情報の流通経路
  - 万人に開放されているインターネットは外部的インフラ ⇒ オープン・アクセスの可能性
- 学術情報流通の「ビジネス・モデル」
  - 利用統計の登場 ⇒ 利用が単価を下げる
- 学術情報における情報の粒度
  - タイトルからアーティクル(論文)へ
- 利用実態の「直接」把握の可能性
  - 「利用統計」(usage statistics)の登場
- 学術情報の「総量」の問題
  - 研究が促進されれば、情報は増える
- 大学図書館の役割の変化
  - データ提供者からサービス提供者へ
  - データ提供者としての役割は、内からのコレクション構築＝機関リポジトリ

# インターネットを利用することの意味

- インフラのコストが分散されている。あるいは、他セクターへ寄生している
  - 少なくとも雑誌コンテンツの流通のコストは極小
- その結果、コンテンツだけが費用の対象となり得る
  - 従来の定価は、紙の冊子体雑誌のものとしての制作費を基礎としていた
  - 量的増加が価格上昇へ反映しにくくなるはず
- 利用者への直接の提供が常態となる
  - 仲介者(出版者、取次代理店、図書館)の役割の変化
  - 二次情報(インデクス、アブストラクト)の変化(ビジネスモデル(Google)、粒度(article/chapter level link resolution))
- 国境を越え、制度と言語のバリアが無意味となり、かつ強化される(図書館実務でも)

# 新しいコスト分担モデルの誕生

- これまでのモデルは、近代的、消費者(=受益者)負担モデル ←  $\text{総費用} / \text{利用者数} = \text{単価}$
- インターネット利用では、利用者(利用)の単位がことになってくる。費用は外側で賄われる

⇒ 著者支払いモデル

- そのための団体系
- 出版者系

「誰か」支払いモデル

スポンサー支払いモデル

?? 利用者の選択圧がなくて品質維持可能?

# 権利問題

- 電子ジャーナルによって、(原則的には)著作権の問題は解決した
  - 「許諾を得て利用する」が著作権尊重の原則
  - 電子ジャーナル・ライセンスは、許諾契約
  - したがって、すべての問題は解消
- ただし、
  - 誰が権利を持っているかは、別の問題
    - 電子ジャーナルより前に、著者にあるのか、出版者にあるのかが問題
    - 著者がもっていれば話は簡単という話は簡単ではない
  - 許諾には許諾料がともなうが、それこそが外国雑誌価格問題(しかし、これは解決済み！)

# 過去の反省

- 1990年代における「電子図書館」
  - お宝所蔵のdigitization ⇒ 誰にも使われず
  - 最新情報のdigitization ⇒ インターネット頒布へ
  - Deep web方式公開だったので、メタデータが流通せず
- 1990年代におけるCD-ROM共有方式
  - お皿の管理はやはり大変
  - Web技術を使わなかったなので、商品依存の利用形態
- カタログの機械化・2次情報のDB化
  - 電子的資料の一次性(born digital)に対応できず

# Google時代の変化

- 図書館ホームページは使われない
- 1クリックでコンテンツが見えないと、見向きもされない
- 電子ジャーナルはこれに対応
  - CrossRef
  - OpenURL
  - Link resolver
- もうひとつ、利用者支払いを求めないビジネス・モデル

# となると、大学図書館が欲しいもの

- 日本語資料のインターネット頒布とそのサイトライセンスによる利用
  - － 閲覧し放題、プリントアウトし放題(一部ですでに実現しつつある)
  - － 冊子は、オンデマンドかDDP
- 相互参照の徹底・1プラットフォーム化
  - － 索引を作らないできた日本の人文系出版の起死回生
  - － 教科書とモノグラフとの連携